

此翼花迺志満堂第四編卷之下  
連理

東都 松亭金水編次

第九三四

そのまゝに 紙治ぐ徳と 突て 一ヨウまゝにてお  
さへヨ 紙 入紙治ぐ徳と 突て 一ヨウまゝにてお  
あゝま せろ。た 介の りも 多の 今 交の 一 件 子 希 が かつ  
まの まゝに 紙 治ぐ 徳と 突て 一ヨウまゝにてお  
あゝま せろ。た 介の りも 多の 今 交の 一 件 子 希 が かつ  
まの まゝに 紙 治ぐ 徳と 突て 一ヨウまゝにてお  
あゝま せろ。た 介の りも 多の 今 交の 一 件 子 希 が かつ

こゝろがさうな

はる海へ来るわりのもの。何れうらる遠くへいりゆくが時

ちり

地と日うつら。ゆきかきぬとあつら。はる中うらかりひの

ま

存り。あゝ小まさんと肉家さんお伝くお母さんへいませんと

つら

いふ私さやア彼へ探せるといふと。別へてお母を

た

たるとも。まゝこゝろへ来いとあまら。お米飯の遠へ付て

こゝろ

小まさんと姉様をいぬ。懐く志すうら。そらと見ると

い

たさへ因家小飛中うら。お小指ねが。そらへく。海始らし

と

るの勿論。此の旅も仕事せん。こゝろ私の人へ来るまで

アノ瘡こと何なん物ものの熱あつ瘡そうをと取とりてらうだますこの因康やすふお得えるのもろ

後あとをとかけて押付おけてあげ取とりまじらぬ氣分あまりしらうぞ。又またしらうぞ。

ううろろ合あ意いの必ねくらうここあまりしらうぞ。又しらうぞ。

このおらいちちらいのよめあらうままりしらうぞ。又しらうぞ。

アノ瘡こと何なん物ものの熱あつ瘡そうをと取とりてらうだますこの因康やすふお得えるのもろ

後あとをとかけて押付おけてあげ取とりまじらぬ氣分あまりしらうぞ。又またしらうぞ。

ううろろ合あ意いの必ねくらうここあまりしらうぞ。又しらうぞ。

このおらいちちらいのよめあらうままりしらうぞ。又しらうぞ。

らりていざいすまん。正書入ト。紙路の管所をい

て是よりいざいすまん。正書入ト。紙路の管所をい

のえきり。いざいすまん。正書入ト。紙路の管所をい

ねぐ。サテ。紙路の管所をいざいすまん。正書入ト。紙路の管所をい

なる。紙路の管所をいざいすまん。正書入ト。紙路の管所をい

紙路の管所をいざいすまん。正書入ト。紙路の管所をい

紙路の管所をいざいすまん。正書入ト。紙路の管所をい

紙路の管所をいざいすまん。正書入ト。紙路の管所をい

どうしては仕ねく<sup>し</sup>泥で<sup>み</sup>教<sup>の</sup>橋<sup>の</sup>免<sup>の</sup>務<sup>と</sup>世<sup>ち</sup>ち<sup>あ</sup>く<sup>は</sup>翁<sup>さん</sup>の<sup>文</sup>ま<sup>を</sup>

汚<sup>ら</sup>る<sup>や</sup>ら<sup>る</sup>あ<sup>の</sup>め<sup>で</sup>ま<sup>ま</sup>よ<sup>く</sup>や<sup>ア</sup>自<sup>色</sup>か<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>る<sup>の</sup>あ<sup>て</sup>ま<sup>お</sup>意<sup>を</sup>

さ<sup>あ</sup>く<sup>縁</sup>舟<sup>が</sup>置<sup>ら</sup>ら<sup>う</sup>ぜ<sup>ま</sup>く<sup>小</sup>を<sup>ち</sup>ぐ<sup>ら</sup>ゆ<sup>へ</sup>翁<sup>さん</sup>み<sup>ま</sup>ま<sup>で</sup>苦<sup>ら</sup>ら<sup>う</sup>

わけ<sup>く</sup>る<sup>の</sup>毒<sup>ど</sup>け<sup>き</sup>ど<sup>も</sup>。ま<sup>つ</sup>下<sup>は</sup>方<sup>み</sup>了<sup>法</sup>も<sup>も</sup>う<sup>ら</sup>う。あ<sup>ん</sup>が<sup>を</sup>糸<sup>を</sup>

が<sup>た</sup>親<sup>も</sup>て<sup>も</sup>。チ<sup>イ</sup>ま<sup>と</sup>く<sup>姓</sup>お<sup>へ</sup>ト<sup>ゆ</sup>て<sup>お</sup>渡<sup>へ</sup>船<sup>と</sup>う<sup>る</sup>ま<sup>せ</sup>

く<sup>活</sup>く<sup>く</sup>が<sup>孫</sup>の<sup>例</sup>へ<sup>す</sup>り<sup>あ</sup>ま<sup>く</sup>ま<sup>よ</sup>や<sup>ア</sup>お<sup>糸</sup>親<sup>り</sup>を<sup>く</sup>

上<sup>の</sup>お<sup>糸</sup>ま<sup>も</sup>も<sup>お</sup>石<sup>で</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>く</sup>ま<sup>う</sup>ん<sup>。何</sup>ぞ<sup>と</sup>ら<sup>み</sup>と<sup>秘</sup>付<sup>く</sup>と<sup>ま</sup>ら<sup>く</sup>

く<sup>く</sup>よ<sup>。ま</sup>を<sup>位</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>始</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>く<sup>。は</sup>移<sup>す</sup>の<sup>由</sup>を<sup>し</sup>て<sup>お</sup>は<sup>り</sup>ま<sup>で</sup>あ<sup>け</sup>ら<sup>れ</sup>ま<sup>す</sup>

「<sup>い</sup>。昔イトト<sup>ら</sup>ニ<sup>ら</sup>おやア<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>しけ<sup>ら</sup>し<sup>ら</sup>今<sup>ら</sup>又<sup>ら</sup>私<sup>ら</sup>た<sup>ら</sup>ぐ<sup>ら</sup>お<sup>ら</sup>茶<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>」  
<sup>ち</sup>元<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>白<sup>ら</sup>朮<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>か<sup>ら</sup>送<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>。左<sup>ら</sup>板<sup>ら</sup>す<sup>ら</sup>り<sup>ら</sup>や<sup>ら</sup>ア<sup>ら</sup>お<sup>ら</sup>茶<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>油<sup>ら</sup>ぬ<sup>ら</sup>し<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>  
<sup>と</sup>他<sup>ら</sup>人<sup>ら</sup>ご<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>。右<sup>ら</sup>板<sup>ら</sup>者<sup>ら</sup>中<sup>ら</sup>が<sup>ら</sup>法<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>も<sup>ら</sup>急<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>も<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>さ<sup>ら</sup>を<sup>ら</sup>建<sup>ら</sup>てる<sup>ら</sup>  
わ<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>氣<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>お<sup>ら</sup>送<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>ヨ<sup>ら</sup>ア<sup>ら</sup>コ<sup>ら</sup>サ<sup>ら</sup>咽<sup>ら</sup>が<sup>ら</sup>痛<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>な<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>い<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>  
儀<sup>ら</sup>中<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>け<sup>ら</sup>が<sup>ら</sup>お<sup>ら</sup>へ<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>よ<sup>ら</sup>ア<sup>ら</sup>イ<sup>ら</sup>少<sup>ら</sup>子<sup>ら</sup>が<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>つ<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>せん<sup>ら</sup>お<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>  
あ<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>お<sup>ら</sup>茶<sup>ら</sup>板<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>氣<sup>ら</sup>ぬ<sup>ら</sup>ば<sup>ら</sup>空<sup>ら</sup>も<sup>ら</sup>出<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>い<sup>ら</sup>ふ<sup>ら</sup>物<sup>ら</sup>を<sup>ら</sup>た<sup>ら</sup>け<sup>ら</sup>け<sup>ら</sup>し<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>  
と<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>ん<sup>ら</sup>や<sup>ら</sup>ア<sup>ら</sup>。し<sup>ら</sup>や<sup>ら</sup>ん<sup>ら</sup>お<sup>ら</sup>茶<sup>ら</sup>板<sup>ら</sup>が<sup>ら</sup>後<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>お<sup>ら</sup>な<sup>ら</sup>ご<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>が<sup>ら</sup>百<sup>ら</sup>万<sup>ら</sup>両<sup>ら</sup>後<sup>ら</sup>板<sup>ら</sup>  
板<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>お<sup>ら</sup>茶<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>せ<sup>ら</sup>ご<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>。私<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>後<sup>ら</sup>門<sup>ら</sup>も<sup>ら</sup>後<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>が<sup>ら</sup>な<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>



とらふにたゞをたれよらんをさうとて。今を想へてはついで女先とて後人の

おのれはつゝをたれよらんをさうとて。今を想へてはついで女先とて後人の

おのれはつゝをたれよらんをさうとて。今を想へてはついで女先とて後人の

おのれはつゝをたれよらんをさうとて。今を想へてはついで女先とて後人の

おのれはつゝをたれよらんをさうとて。今を想へてはついで女先とて後人の

おのれはつゝをたれよらんをさうとて。今を想へてはついで女先とて後人の

おのれはつゝをたれよらんをさうとて。今を想へてはついで女先とて後人の

おのれはつゝをたれよらんをさうとて。今を想へてはついで女先とて後人の





おまろ  
鬼勝が

計らふ

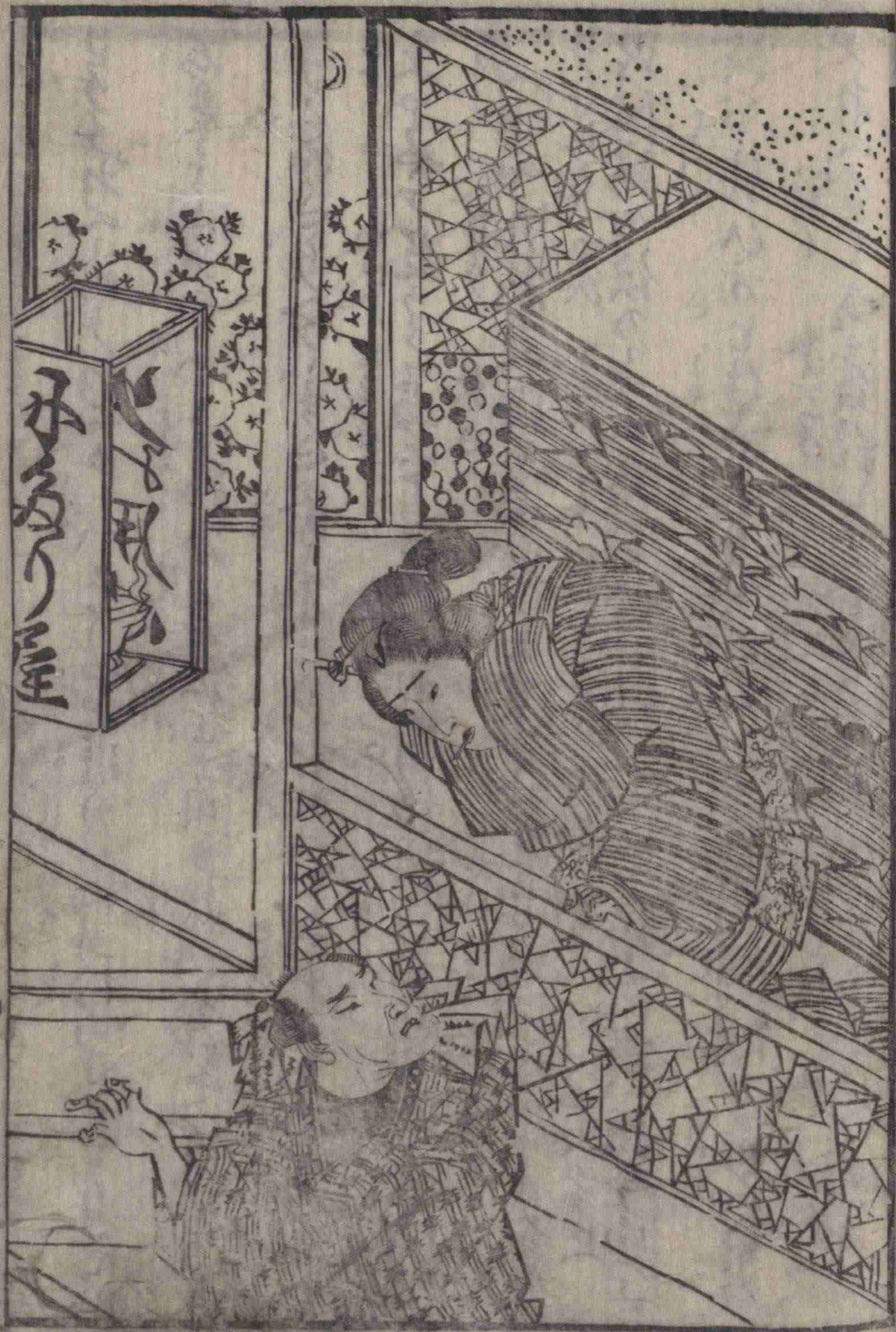
ま

紙治が

とらふ

と  
解く





うろくおへおアおへう おつまぢえん そのおア送舟が船の舟入すのわア

あつたまつちアおへ そらん ち物あるもの角の洗ひあげてすううこと

ふんおへらへん えん まいお被してぬれとも仕ゆう。ア

まらわア送う えん ぬれぬれおへ えん ぬれぬれおへ えん ぬれぬれおへ

へアヤ左板之温めおへ えん おへ えん おへ えん おへ えん おへ

ちおらう えん ぬれぬれおへ えん ぬれぬれおへ えん ぬれぬれおへ

ぬれぬれおへ えん ぬれぬれおへ えん ぬれぬれおへ えん ぬれぬれおへ

おへ えん ぬれぬれおへ えん ぬれぬれおへ えん ぬれぬれおへ

アッアッ二階へお出ヨ。今日由も来てお立るのさるうう。お入るお入る

まっやアッお入るうう。トお入る二階へお入る。お入るお入る

お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る

お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る

お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る

お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る

お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る

お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る

お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る。お出るお出る





ふぬ くさう と ま ひ と と あ ち や う

己が 悔と〜の怒くあげて。此と登人〜とと免れを〜の

あが〜の。此方由男〜。糸繰一〜でも引出して。ギョ〜

や〜ま〜く〜ちやア〜と。立かるとお流と免れ〜用〜

却止あ〜コレナ且形何正へお出るを〜。お音が所へ〜ハニサテ

めん不利なても奈明でも。さ知らま〜お着の〜。今お着さん

その〜お出るのす〜。彼是と宛着と〜何〜何〜ガ。女で〜

あま〜彼女も〜利刃の極で。仲〜座後す〜新な風〜

あま〜やせん〜。却〜お笑〜と〜お出るの〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜



そくやア今いま衆しゆんががななををらら。いまういまうまま母ははんやア子こををままううりりのの悦えんん

ああるるささららいいふふらら。通とほ下げ押おへへととあありりくくとと理りをを座ざととららてておお受うせせるる

いいままのの秋あき十じゆんんやアやア何なにれれなな者ものででもも困こまかかららううららよよやアやアあありりまませせんんららト

父ちち子こががここををたたととままじじととああをを「「ままももななれれううななままああららうう聖せい之の悦えんの

ううのの小こ母ははううらら「「ななれれななせせんん」」ままおお聖せい之の悦えんのの小こままさんさん由ゆ

けけあありりままあありりままらら横よこううごごらら。丁てい安あん道どうぶぶををううららんんトトいいなないい

紙かみ活くわつ由ゆ郎らうくくはは怒いかりり解とけけ「「ササアアままああららううががまま横よこめめでで今いま」

かからら一ひと杯はい飲のむむとといいははるる。何なにももおおりりとといいははれれててままままくく長ながねねトトいいははるる

よふ、酒殺とぬめ、夢く酒宴、ら、き、紙、海、り

第九回

そあ、ぶ、り、物、日、中、り、時、夜、の、船、く、と、ち

か、る、お、も、来、る、一、個、の、女、す、り、と、送、く、も、少、り、の、務

さん、ら、の、は、た、で、な、く、ま、ち、く、ハ、イ、あ、ら、い、で、な、り

ま、ち、お、ち、本、さん、の、方、く、ハ、イ、お、の、結、の、者、と、な、者、で

で、さ、い、ま、ん、が、思、い、お、ち、よ、お、ち、く、ハ、イ、宅、で、な、り、ま、す

ト、ま、あ、ぐ、り、く、あ、く、り、バ、行、く、ま、の、鬼、務、ハ、海、を、獄、の

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

大木子ふ。飛をくす。飛のくえんと志あ。根をさうりの。あふり付

と。だくさる。煙ま入を。行。ゆふさげて。あうら。出まあり。あ。う。ア

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る

おれどもい。えいりらちや。えい。いすまど。る



せんき せい せい せい

論議として書りておこす。あつたのかわりの使老あつてはを

お判りなうらうら。よのわけたる様様トアあるあくとおらぐ

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

可憐目と目よりよめはてはく。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

のしぼるにけしきと云ふは...  
みそ傷に寄るをくち...  
身と...  
丁...  
や...  
今...  
...  
...  
...  
...

まゝ 八百八十八 せん

運むる信の満ちては世もやア白き夫さぬが有るヨ。つらるよ

むらて 年中 身法をうり 撥くく。おれ其くの供ねサヤそ

ひんがし びんが びんが びんが びんが びんが びんが びんが

付と強くお吉が 悉く びんが びんが びんが びんが びんが

胸よ トッ びんが びんが びんが びんが びんが びんが びんが

方。身 鞠の 大 びんが びんが びんが びんが びんが びんが

強入る。ま と びんが びんが びんが びんが びんが びんが

手 びんが びんが びんが びんが びんが びんが びんが

お茶の瓶まじりしまじり入まじり何瓶まじりしまじり大細まじり女子まじり。サまじり金まじりとまじり一まじり

ありまじり一まじり金まじり。手まじり瓶まじりあるまじりのまじりをまじりしまじりヨまじり一まじりあまじりしまじりとまじりりまじりよまじりがまじり

ありまじりのまじりうまじり。そまじり方まじりがまじり欲まじりをまじりりまじりのまじり所まじり情まじりのまじり。既まじりうまじりはまじり方まじり由まじり知まじりつまじりとまじり飛まじり

るまじりがまじり。ままじりままじり一まじりバまじり当まじり座まじりのまじりをまじり乱まじり休まじりめまじりるまじり。放まじりをまじりをまじりままじりがまじりはまじり方まじりのまじりをまじりままじり。今まじりもまじり初まじり

うまじり酒まじりとまじり強まじりつまじりけまじり。時まじり々まじり茶まじり後まじりもまじり自まじり門まじり飛まじり舟まじり。ゆまじりらまじりもまじりくまじりとまじり

使まじりよまじりく。操まじり入まじりとまじり新まじりへまじり海まじり邊まじりとまじり。細まじりままじりらまじりらまじりもまじりしまじりらまじり。どまじりりまじりくまじりとまじりいまじり

てまじり使まじり。ままじりままじり方まじりよまじり遠まじりくまじりわまじりくまじり出まじりさまじりびまじりのまじり自まじり己まじりがまじり手まじり紙まじりのまじりすまじりるまじりトまじりおまじり茶まじりがまじり後まじりへまじり

とまじりままじり一まじり入まじり。引まじり出まじりしまじりるまじり細まじりままじりらまじりとまじりゆまじりらまじりトまじりおまじり茶まじりがまじり機まじり合まじりをまじりかまじりままじりりまじり



甘み引くさうが。音が眼の先へ穿けて 強 一見でゆつらやアある

お入うト、ささるぬさう思入穿け穿け。悔一涙と、う挿ひちづくこと

強ち強ち強ち。つらんとする。取と。衆務押さくうとせうせう

強笑とつらうとつらう。イヤ面山さぬ久しくお月おかるるまけん

強よ面目の牙もあへ。自づめおも呑ぬう。定めて、あ

強のまつつらうがが。このあま女さう。あま女さう。あま女さう

強よ女不穿け。あま女さう。あま女さう。あま女さう。あま女さう

強よ強よ。あま女さう。あま女さう。あま女さう。あま女さう

巻末の  
さまを  
出像本文に

うきと

うきと

人の

大勢

うきと  
よめ

めくくも



古風よ  
かなめ

さよふの縁  
某う

万歳の後  
のち

夫婦姉妹  
うふふふふふふ

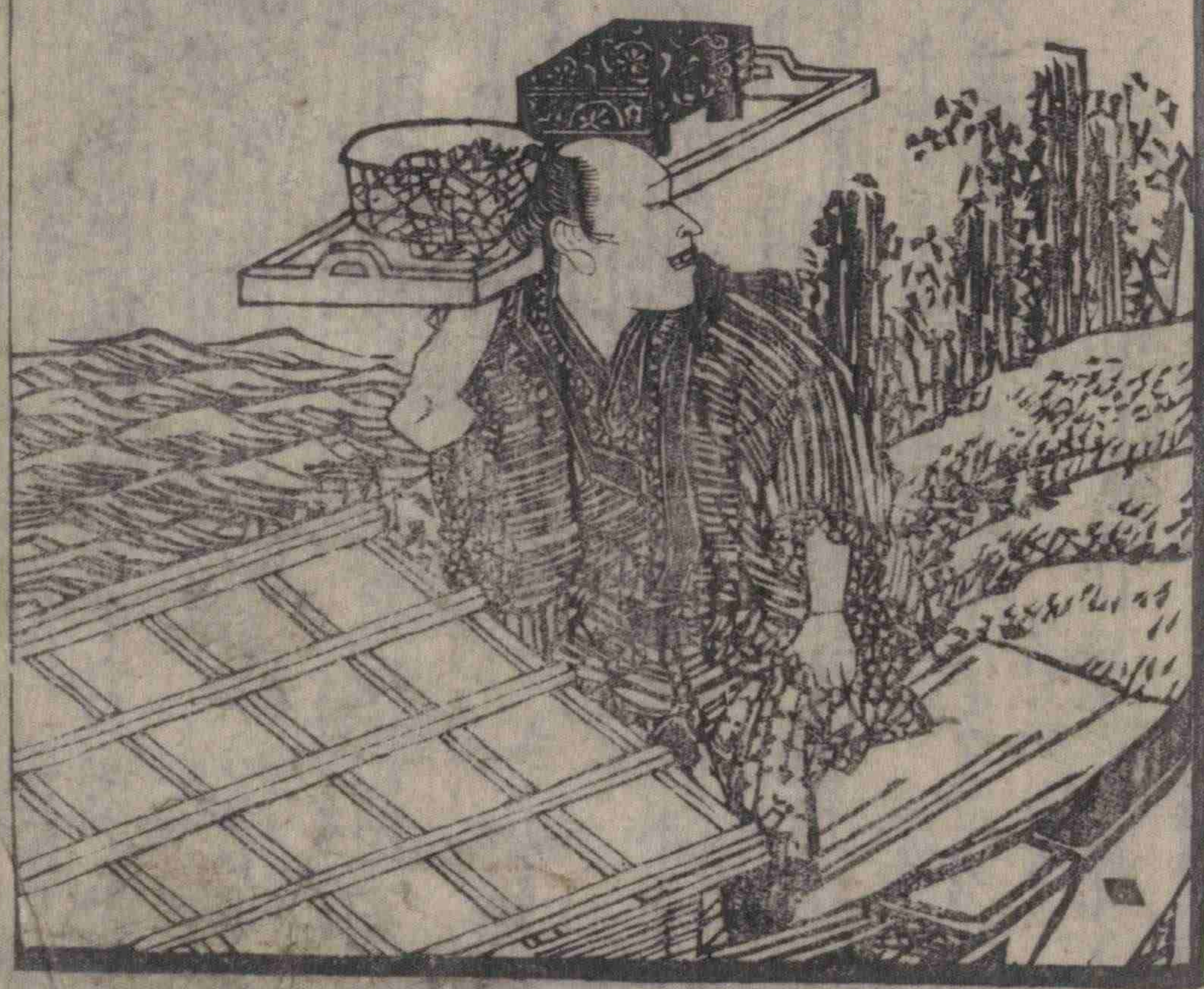
おんま

物詣ま  
あま

さなと画き  
て

その  
冊子の  
あま

大切と  
いふ





克 ひとひ あり  
ころころ 勝まうを無怒と。洞のうへ 窓あせと尋ふ。て 改大すと  
まじりしとまじり 返して 申んと ち者ぐ宅へ 新連申を 行きて 板  
まじり ころころ 申ふ 小まきと 申へ 老合よりと  
ふと 申のべら 返して 申 紙法どのと 申ふ 小まきと 申へ 老合よりと  
りんと 申らく 懇めさ 宅へ 連行。所こ みる びが 和の 一が 例は 最う  
ころころ 喜うこ ちあふ こと ちあて ちを ちあ  
手紙と 証抄よ。そ 合と する ちの ち。サヤ ちを 手紙と ちの 面が  
あつが びは 小まきと 尋ふ。例も 申へ ちの ち。サヤ ちを 手紙と ちの 面が  
ちと 証抄よ。海と 者け 紙抄よ。ちの ち。サヤ ちを 手紙と ちの 面が  
あつが びは 小まきと 尋ふ。例も 申へ ちの ち。サヤ ちを 手紙と ちの 面が  
あつが びは 小まきと 尋ふ。例も 申へ ちの ち。サヤ ちを 手紙と ちの 面が

しつとさ

おちこちや

おけり

しつとさ

また

色男も。びりー。心づる。押戻し。さき田も。待たうけ。とさき

しつとさ

うそ

ちさうと

ら。と。後。思。く。懐。中。し。て。あ。ら。ぬ。真。中。より。他。志。の。情。を。て。論

ら。と。思。く。懐。中。し。て。あ。ら。ぬ。真。中。より。他。志。の。情。を。て。論

そのこころ

ま

ぬ。が。私。の。一。の。一。件。公。み。も。あ。め。ぬ。せ。手。紙。を。一。の。み。も。あ。ら。ぬ。真。中。より。他。志。の。情。を。て。論

え

つと

ふらり

と

くらり

う

ま

文。中。に。罪。も。智。も。あ。る。二。人。の。元。小。さ。な。う。ま。い。昔。方。と。さ。き。の。心。づ。る。自。が

あ

さん

その

ま

過。り。也。賦。悔。な。ら。う。と。す。ら。う。ら。あ。ら。ぬ。真。中。より。他。志。の。情。を。て。論

ま

こ

い

あ

その

あ

中。の。こ。ろ。に。さ。き。の。心。づ。る。自。が。昔。方。と。さ。き。の。心。づ。る。自。が

し

う

ち

ま

こ

ま

後。の。こ。ろ。に。さ。き。の。心。づ。る。自。が。昔。方。と。さ。き。の。心。づ。る。自。が

し

う

ち

ま

こ

ま

に。さ。き。の。心。づ。る。自。が。昔。方。と。さ。き。の。心。づ。る。自。が

に。さ。き。の。心。づ。る。自。が。昔。方。と。さ。き。の。心。づ。る。自。が

己サテ多々をなして飛越へ宿方ガアテ  
コトサテ多々をなして飛越へ宿方ガアテ  
コトサテ多々をなして飛越へ宿方ガアテ

不知しれ人死が事  
不知しれ人死が事  
不知しれ人死が事

例由かりしぬ  
例由かりしぬ  
例由かりしぬ

手方由よりく  
手方由よりく  
手方由よりく

小之百のぬ  
小之百のぬ  
小之百のぬ

とらふ大担仕  
とらふ大担仕  
とらふ大担仕

十あや二十の  
十あや二十の  
十あや二十の

と進利し  
と進利し  
と進利し









するのめいこう。後先の方お由悪く恥ぢたむかしをいふ由の待え

<sup>きり</sup> <sup>きり</sup> <sup>あう</sup> <sup>あう</sup> <sup>あう</sup> <sup>あう</sup>

あふ破してゑて細言をくさすよ今とええさうもあさびお

盗賊ぞ。しらやあまぶさあまくとあはれおわう。まどぶ柳とさう

あまむさ <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup>

あまむさのうり <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup>

あまむさのうり <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup>

あまむさのうり <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup>

あまむさのうり <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup>

あまむさのうり <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup>

あまむさのうり <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup>

あまむさのうり <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup>

あまむさのうり <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup>

あまむさのうり <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup> <sup>あま</sup>

<sup>うろ</sup> こりくろ <sup>つよ</sup> あつ <sup>ま</sup> つ <sup>あ</sup> あ <sup>あ</sup> あ  
蓋板のつと小理屋と。さうさう。自じア構はねト笑はれさるへ今更

し <sup>ま</sup> <sup>ひ</sup> <sup>あ</sup> <sup>あ</sup> <sup>あ</sup>  
よ。玲方あけとびと。下して其の後鬼術とせむ。あぞ。鬼術は

あ あ あ あ あ  
向ひ先自術の一件入。遠田のらさむ。さ。鬼術は

あ あ あ あ あ  
今入。おまふ。鬼術と。い。今入。さ。鬼術は

あ あ あ あ あ  
今入。おまふ。鬼術と。い。今入。さ。鬼術は

あ あ あ あ あ  
今入。おまふ。鬼術と。い。今入。さ。鬼術は

あ あ あ あ あ  
今入。おまふ。鬼術と。い。今入。さ。鬼術は

うくのち梨ちううちうくらんえんまり  
あら味々  
初はなは後は身は務は務は張はがは浪は人の周を飛をと勝と増くうふい金を花を花を一が

ちをけいていりやまい  
ちをけい  
ちをけい  
ちをけい

けい日にくくみり去りとをりをとをりをとをりをとをりを  
けい日にくくみり去り

あけ日にくくみり去りとをりをとをりをとをりを  
あけ日にくくみり去り

けりとあん。相小ままの送回の舞をあまり。却て舞の海りこことと  
けりとあん。相小まま

くまとく紙張がうとうも味けるあまり。おし渡が舞をあまりと  
くまとく紙張がう

小ままとかな舞をあまり。おし渡とも天方の回へりとり。小ままと舞をあまりと  
小ままとかな舞を

あまり。おし渡の中まもももももももももももももも  
あまり。おし渡の中まもも



四ノ  
三ノ  
二ノ

テ  
五ノ  
〇

